

江古田の獅子舞のおはなし

中野区江古田にある氷川神社の秋の祭りは、地域の人々で毎年賑わいをみせている。その中でも特に目を引くのは、一見恐ろしいような顔つきで激しく動き回る獅子舞ではないだろうか。江古田の獅子舞は、無形民俗文化財に登録されている。

そもそも獅子舞とは、獅子の頭を被って舞う民俗芸術である。農耕儀礼だったり、災いを免れるための儀式だったり地域によって様々な意味を持っている。江古田の獅子舞は病魔を払い、災難を除くものとして古くから信仰されてきた。

文献を紐解いてみても、いつ頃が起源なのかがはっきりしていないが、江古田一丁目に祀ってあった御嶽神社の神宮寺であった東福寺の境内で、鎌倉時代から舞っていたという説がある。1913(大正2)年に御嶽神社が合祀され、氷川神社が鎮守となった流れで、獅子舞も氷川神社に属することになったようだ。この年の秋に現在の

氷川神社境内で舞うようになったとする文献が残っている。

さて、獅子舞

といつて一般的

に思い起こすのは、各家を回り門付をする姿だと思いが、江古田の場合は囃子や山車、神輿とともに街を練り歩き、神社を目指す。到着すると神前において神前の舞を奉納することになる。

また、他の獅子舞と大きく異なる点として、獅子舞の行列に四神が行動を共にすることが挙げられる。この形態は全国的に類を見ない。四神とは中国や朝鮮における伝説上の神獣である。青龍、白虎、朱雀、玄武といった神獣が先頭から順番に東西南北に割り当てられている。これら四方から護られるということは、福祿、無病、長寿に繋がるとされている。

江古田の獅子舞は、女獅子、中獅子、大獅子の

三頭に分けられる。女獅子の舞は序曲にあたり、四方固めの舞と呼ばれる。四神に演舞を始めることを告げ、安全を祈る舞である。中獅子は平舞という身を清める舞の後、悪魔を払うための護身の法でまじなう。大獅子は中獅子と同様、平舞なのだが、より細分化され、笛がかりの舞、帯がかりの舞、幕がかりの舞などがある。これにより悪魔が払われ、災害から護られるよう安泰が祈願される。これら一頭ずつの舞の後に三頭が一緒に舞うことにより、全ての演舞を終えることになる。

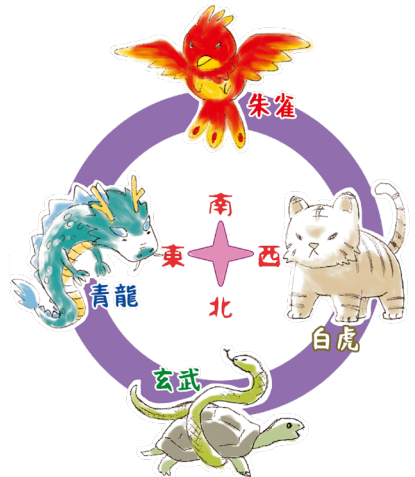
文献には獅子が舞うたびにいつも好評を博したと記されている。また、中野区が所蔵するDVD資料では、獅子舞の先生から指導を受け、懸命に獅子役を練習する子ども達の風景が垣間見れる。江古田の獅子舞はこのように、地域の人々の手によって遥か昔から伝承されてきている。

賑やかな囃子とともに舞い踊り、我々の健康を願う江古田の獅子舞をぜひ一度ご覧になることもおすすめする。

※1 神社に付属して建てられた寺院
※2 二社または二柱以上の祭神を一社に合せ祀ること

参考文献

『江古田の獅子舞ほか数編』橋本喜一／著 1979
所蔵：中央・楚・本町・野方・南台・鷺宮・江古田
『江古田の獅子舞』堀野 良之助／著 1970
所蔵：中央・南台・江古田
『中野区の文化と歴史』中野区立歴史民俗資料館 1982
所蔵：中央 媒体：DVD



四神から護られることは縁起がイイ！

